おおてみち

第132号

令和７年(2025年) ７月１日
滋賀県立安土城考古博物館

第70回企画展

紫香楽と信楽

宮の造営と焼き物の歴史



阿弥陀寺古墓　壺
（当館蔵）

令和７年
７月19日(土)－９月23日(火・祝)

◆開館時間＝午前９時～午後５時 ※入館は午後４時30分まで
◆休 館 日＝月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日）
◆入 館 料＝大人660円(530円)／大学生400円(330円)
※小中高生・障がい者及び県内在住の65歳以上の方は無料です。
※(　)は20人以上の団体料金です。

◆主催＝滋賀県立安士城考古博物館
◆共催＝京都新聞
◆協賛＝甲賀市教育委員会

宮町遺跡整備状況（甲賀市教育委員会提供）

近江風土記の丘
滋賀県立 安土城考古博物館
Shiga Prefectural Azuchi Castle Archaeological Museum

滋賀県立安土城考古博物館・滋賀県立陶芸の森 連携企画展
「信楽焼と民藝―考古の眼差し」

〔信楽会場〕
令和７年９月２日(火)～９月28日(日)
滋賀県立陶芸の森 陶芸館ギャラリー

第70回企画展
「紫香楽と信楽
―宮の造営と焼き物の歴史―」

会期　令和7年7月19日(土)～9月23日(火・祝)
会場　企画展示室・第2常設展示室の一部

今を遡ること1250年ほど前の天平年間、聖武天皇は信楽の地に紫香楽宮(しがらきのみや)を造営します。甲賀寺では巨大な盧舎那仏(るしゃなぶつ)（大仏）も造られ始めますが、2年を経ずして頓挫(とんざ)し、事業は東大寺に受け継がれることとなりました。

それからおよそ700年後、信楽は「茶陶(ちゃとう)」、つまり茶の湯の焼き物の名として再度、歴史の表舞台に現れます。現在、甲賀市信楽町を中心とする地域で作られている「信楽焼」の始まりです。

紫香楽と信楽。「宮」と「焼き物」の歴史に輝く2つのシガラキの名は、なぜこの地に誕生したのでしょうか？

今回の展示ではその謎を、シガラキの「土」を通じて読み解きます。発掘された考古資料、縄文時代～安土・桃山時代の「焼き物」を積極的に用いて、紫香楽宮の全体像と、信楽の焼き物づくりの歴史の実像に迫ります。（大道和人）

【主な展示資料】△は県指定文化財、□は市指定文化財
□宮町遺跡出土資料（甲賀市教育委員会蔵）、△鍛冶屋敷遺跡出土資料（滋賀県蔵）、□内裏野廃寺（甲賀寺跡推定地）出土資料（甲賀市立雲井小学校蔵・滋賀県蔵）、古信楽（県立陶芸の森蔵）



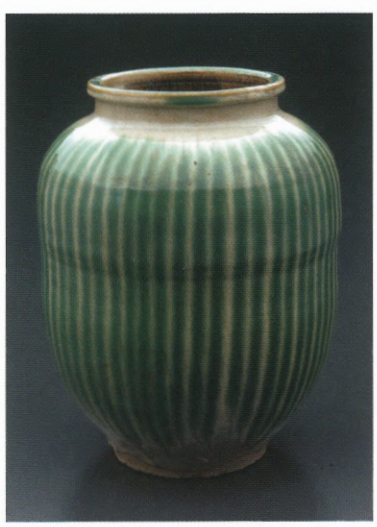
江田古墓　甕
（滋賀県工業技術総合センター信楽窯業技術試験場蔵）

「なぜ紫香楽で大仏を造り始め頓挫したのか―聖武天皇と紫香楽宮―」
8月9日(土)　13時～17時
基調講演「聖武天皇にとって紫香楽宮とは？」
講師　神野　恵氏（奈良文化財研究所）
基調報告①「史跡紫香楽宮跡の発掘調査1」
講師　小谷徳彦氏（甲賀市教育委員会）
基調報告②「史跡紫香楽宮跡の発掘調査2」
講師　大道和人（当館学芸員）
基調報告③「なぜ紫香楽か？」
講師　細川修平氏（滋賀県文化スポーツ部）
討論・ギャラリートーク
参加費　1000円（資料代・入館料）
会　場　当館セミナールーム
定　員　120名（先着順）

〈企画展関連講座〉
「甲賀の焼き物の歴史」
講師　伊藤航貴氏（甲賀市教育委員会）
8月30日(土)　13時30分～15時
参加費　500円（資料代）
会　場　当館セミナールーム
定　員　120名（先着順）

〈ワークショップ〉
「土器にふれて！作って！焼こう！」
（詳細は最終頁参照）

〈特別陳列Ⅲ〉
「信楽焼と民藝
―柳宗悦に見出された信楽の美」
会　期　令和7年9月2日(火)～9月28日(日)
会　場　当館望楼下



近世信楽焼　青簾甕　19世紀
（県立陶芸の森蔵）

〈特別陳列Ⅲ関連講座〉
「アートからみた考古遺物の魅力」
講師　松井利夫氏（県立陶芸の森館長）
9月7日(日)　13時30分～15時
参加費　500円（資料代）
会　場　当館セミナールーム
定　員　120名（先着順）

資料紹介

六角氏式目－大谷本－

1冊
江戸時代写
当館蔵

群雄割拠する戦国時代、大名らは家臣団の統制や領国支配のため、独自の国内法を定めていたようです。これらは「分国法」「戦国家法」等と呼ばれ、現在、10種ほどが確認されています。

そのうちの一つが、南近江を支配した六角氏が制定した「六角氏式目」です。原本は残っておらず原題も不明で（同時代史料には「置目」と記されます）、便宜上このように呼ばれています。本編は67条から成り、年貢収納などの租税法から始まる農民支配の方法、家族関係などの民法、刑事犯罪に関する規定（刑法）、所領相論などの訴訟法やその手続きなど、多岐にわたる法律分野をカバーした一大法典でした。

このように書くと、領主の六角氏が権力に任せて定め、家臣や領民に守らせたように思ってしまいますが、どうも状況は違うようです。条項に続き、これらを起草した家臣20名が連署して内容に間違いないとする起請文を記し、後に当主の六角義治と剃髪した父承禎がその内容を認め遵守を誓う起請文が続きます。





実は、この式目が制定された永禄10年（1567）の4年前、当主の義治（当時は義弼と名乗る）が重臣の後藤父子を観音寺城で謀殺し、反発した他の重臣が反乱を起こす「観音寺騒動」と呼ばれる事件が起こっていました。これによって家中の主従関係は破綻し、機を狙った江北の浅井氏が南進するなど、六角氏の支配は危機に陥ります。式目の制定は、この状況を収拾し家中体制を再編するためだったとする説が有力です。しかしながらその努力も空しく、翌年上洛する織田信長によって、六角氏の支配は終焉を迎えました。

写真の式目は、野洲市の神官家である大谷家が所蔵していた写本ですが、このたび当館に寄贈されました。これまでも何度か展示をしていますが、機を見つけて館蔵資料としてのお披露目展示を行いたいと考えています。

（髙木叙子）

安土城築城450年に向けて

再来年、令和8年（2026）は、安土城築城が開始された天正4年（1576）から450年目の節目にあたる年です。滋賀県が現在進めている「幻の安土城」復元プロジェクトでも、令和8年をターゲットイヤーとして、発掘調査や安土城の見える化に取り組んでいます。また、築城450年を記念する機運醸成事業も予定しています。

毎年恒例の歴史セミナーは、春は安土城跡のこれまでの調査・整備をテーマに開催し、大勢の皆さまにお楽しみいただきました。秋にも信長と安土城をテーマに開催する予定ですので、ご期待ください。

また、令和8年はNHK大河ドラマ「豊臣兄弟！」が放映されます。安土も舞台となることが予想されますので、今後、ますます安土で戦国が盛り上がっていくことは間違いありません。

安土城考古博物館は、3月に「安土城・信長・戦国」のテーマ館としてリニューアルオープンしました。秋には安土城のアプリも完成する予定です。博物館の展示を楽しみ、アプリを持って安土城跡を見学して、戦国のメッカ安土をぜひ、ご堪能ください。

（滋賀県文化財保護課）



博物館シアター映像タイトル

博物館の主な催し

第70回企画展「紫香楽と信楽」7月19日（土）～9月23日（火・祝）

特別陳列Ⅰ・地域連携企画展「明智光秀と近江」6月3日（火）～8月3日（日）

特別陳列Ⅱ「城郭出土の笏谷石」6月17日（火）～7月19日（土）

特別陳列Ⅲ「信楽焼と民藝」9月2日（火）～9月28日（日）

7月

5日（土）連続講座Ⅰ「近江の城　調査・研究の最前線」③「発掘調査成果からみた境目の城」
講師…石田雄士氏（米原市教育委員会生涯学習課）
7日（月）休館日
14日（月）休館日
19日（土）連続講座Ⅰ「近江の城　調査・研究の最前線」④「近江の城と笏谷石」
講師…古山明日香氏（長浜市産業観光部文化観光課）
22日（火）休館日
28日（月）休館日

8月

4日（月）休館日
9日（土）企画展関連シンポジウム
「なぜ紫香楽で大仏を作り始め頓挫したのか―聖武天皇と紫香楽宮―」
講師…神野恵氏（奈良文化財研究所）・細川修平氏（滋賀県文化スポーツ部）・小谷徳彦氏（甲賀市教育委員会）・大道和人（当館）
10日（日）企画展関連イベント「土器にふれて！作って！焼こう！」①
「土器作り」ワークショップ〈要予約〉
12日（火）休館日
18日（月）休館日
24日（日）体験博物館「勾玉を作ろう」〈要予約〉
25日（月）休館日
30日（土）企画展関連講座「甲賀の焼物の歴史」
講師…伊藤航貴氏（甲賀市教育委員会）

9月

1日（月）休館日
7日（日）特別陳列Ⅲ関連講座「アートからみた考古遺物の魅力」
講師…松井利夫氏（県立陶芸の森館長）
8日（月）休館日
13日（土）企画展関連イベント「土器にふれて！作って！焼こう！」②
「野焼き」ワークショップ〈要予約〉
16日（火）休館日
24日（水）休館日
29日（月）休館日

この夏、オリジナルの土器を焼こう！

7月19日（土）から始まる夏の企画展「紫香楽と信楽」では、特別ワークショップ「土器にふれて！作って！焼こう！」を開催します。当館と県立陶芸の森（甲賀市信楽町）の2会場で実施する周遊型企画（全2回）です。第1回は、博物館の学芸員と本物の縄文土器や弥生土器にさわってよく観察してから、陶芸家と一緒に土器を制作します。約1か月乾燥させた後、第2回では屋外で薪を組み、作った土器を「野焼き」します。窯で焼成する方法が日本に伝わる以前、縄文時代や弥生時代から行われていた土器作りの技術を体感することができます。

参加者の方は、もちろん企画展もご覧いただけます。展示室には、土器作りの歴史を紹介するコーナーがあります。ご注目いただきたいのは、ぐるぐると二重にめぐる口縁の装飾が見事な竜ケ崎A遺跡（近江八幡市安土町）の縄文土器です。安土山の麓から出土した約4200年前（縄文時代中期後葉）の土器で、形や装飾には東海地方の影響が見られます。当時の安土に暮らす人々が周辺地域と交流していたことがうかがえます。

安土と信楽を堪能できる夏のイベント、皆さまのご参加をお待ちしております。（瓜生翠）


竜ヶ崎A遺跡　縄文土器（滋賀県蔵）

※シアターを視聴される方は、事前予約がお薦めです。こちらから予約ができます。→
※講演会・講座の会場は当館セミナールームです。
※事情により行事内容や日時・講師が変更になることがあります。最新の情報は当館ホームページでご確認下さい。
※滋賀県立安土城考古博物館は公益財団法人滋賀県文化財保護協会が指定管理をしています。

おおてみち　第132号
令和7年（2025年）7月1日発行
編集・発行　滋賀県立安土城考古博物館
〒521-1311　滋賀県近江八幡市安土町下豊浦6678　TEL0748-46-2424
E-mail：gakugei@azuchi-museum.or.jp　URL：https://www.azuchi-museum.or.jp